

エコアクション21  
環境活動レポート

共同グラビヤ印刷株式会社

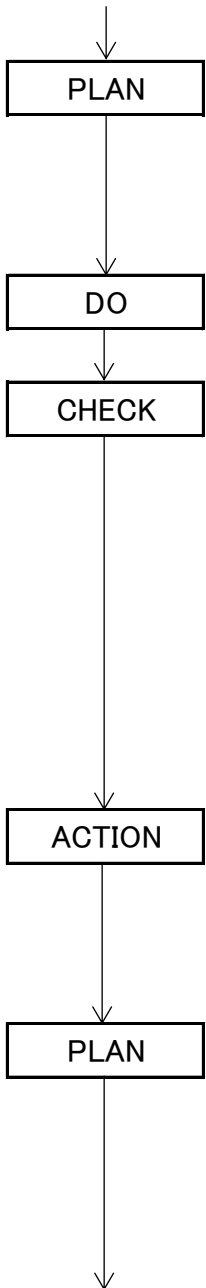
発行日 : 2019年7月1日

改訂日 : 2019年8月29日

(対象期間2018年4月～2019年3月)

# 目 次

1.組織の概要	3
1)事業者名及び代表者名	
2)所在地	
3)環境管理責任者	
4)事業の内容	
5)事業の規模	
2.認証・登録の対象範囲	3
3.環境方針	4
4.今年度の主要な環境活動計画の内容	5
5.今年度の環境目標およびそれに対する取り組み結果	6
6.取り組み結果に対する評価	7
7.本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価	9
8.教育訓練体制についての評価	10
9.環境関連法規への違反、訴訟等の有無	10
10.代表者による全体評価と見直し	10
11.次年度の活動管理について	11
12.中期計画(2017年度～2021年度まで5ヶ年)	11
13.次年度の主要な環境活動計画の内容	12



## 1.組織の概要

### (1)事業者名及び代表者名

共同グラフィヤ印刷株式会社  
代表取締役 八谷 順一

### (2)所在地

〒496-0031 愛知県津島市埋田町5丁目100番地

### (3)環境管理責任者

責任者 総務部長 高坂 誠一  
連絡先 電話:0567-25-2356 FAX:0567-26-3013  
事務局 業務部業務課係長 柴田 聡

### (4)事業の内容

グラフィヤ印刷及び包装資材販売

### (5)事業の規模

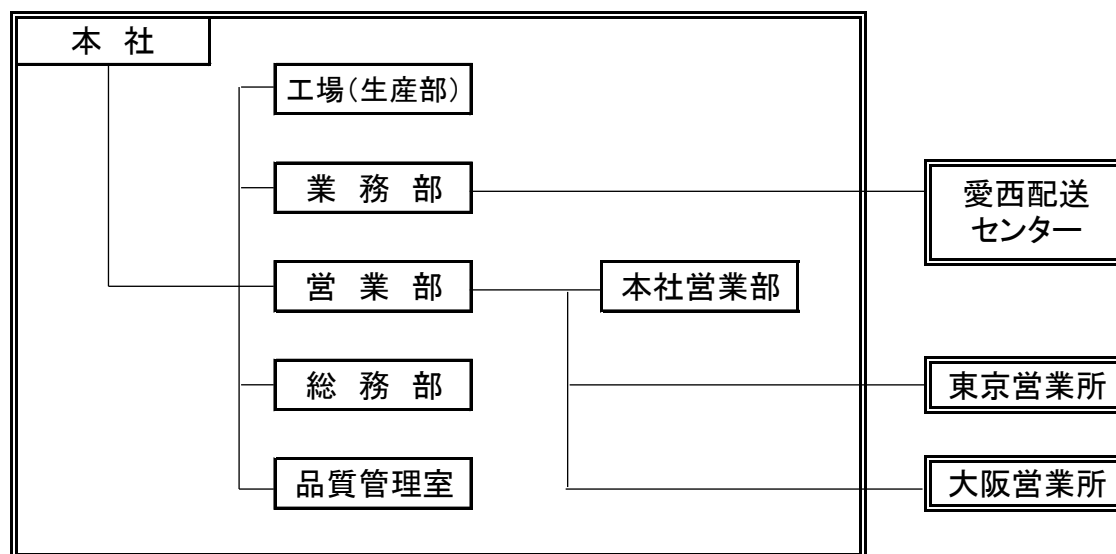
売上	12.8億円 (2018.4月～2019.3月)
従業員数	52名 (2019.4.1現在)
本社工場延べ床面積(駐車場含む)	2,183 平方メートル
愛西配送センター延べ床面積	1,904 平方メートル
東京営業所延べ床面積	40 平方メートル
大阪営業所延べ床面積	28 平方メートル

## 2.認証・登録の対象範囲

(認証・登録番号 0002785)

事業活動 : グラフィヤ印刷及び包装資材販売

対象事業所 : 本社、愛西配送センター、  
東京営業所、大阪営業所



二重線に囲まれた4つの部分を対象組織とする。

# 環 境 方 針

## 環境理念

共同グラビヤ印刷株式会社は、食料品関連の包装資材の生産活動を通じて環境にやさしい包装資材の提供を基本理念として、社会に貢献します。

環境汚染の予防と環境保全の継続的改善により、地球温暖化の防止と環境循環型社会の形成をめざします。

環境に配慮した商品を通じて、お客様の満足度を向上させられるように取り組みます。

## 基本方針

1. 共同グラビヤ印刷株式会社に、適用される法規制、共同グラビヤ印刷株式会社が同意するその他の要求事項を順守致します。
2. 環境経営システムを運用するに当たり、以下を目標に展開いたします。
  - ①グラビヤ印刷の生産活動において、省エネルギーに取り組み二酸化炭素の削減に努めます。
  - ②グラビヤ印刷の生産活動において、廃棄物の削減・リサイクルの推進に努めます。
  - ③機械使用時等の節水により総排出量の削減に努めます。
  - ④資材調達でのグリーン購入を推進いたします。
  - ⑤環境配慮商品、サービスの提供に努めます。
  - ⑥有害化学物質の使用量の削減に努めます。
3. 本方針を全社員に周知し、環境経営システムの継続的改善を進めます。

制定日：2009年 9月30日

改定日：2018年 10月 1日

共同グラビヤ印刷株式会社

代表取締役 八谷 順一

#### 4 今年度の主要な環境活動計画の内容

##### 1) 二酸化炭素排出量の削減取り組み

###### 購買電力量

- A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付
- B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26°C・暖房時22°C
- C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し
- D) 機械のメンテナンス体制の充実
- E) 生産設備可働率の向上

###### ガソリン・軽油の使用量

- A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)
- B) 低速走行の励行、急発進の禁止
- C) 車のエアコン設定温度の見直し
- D) 点検・整備の励行
- E) 納品および営業活動のルートの見直しによる、走行距離の削減
- F) 配送トラックの走行距離・燃費データの把握と分析

###### LPGの使用量

- A) 機械のメンテナンス体制の充実
- B) 生産設備可働率の向上
- C) 段取り工場による、工場稼働時間の短縮

##### 2) 廃棄物排出量の削減取り組み

###### 一般廃棄物・事業系廃棄物

- A) コピー紙の再利用の促進
- B) 紙管の回収及び再利用の促進
- C) 再生紙利用の促進

###### 産業廃棄物

- A) 良品の不良化の防止
- B) 試刷りの適正利用
- C) ロス・製造不良の削減
- D) オペレーターの技術向上

##### 3) 水使用量の削減取り組み

- A) 節水ステッカの貼付
- B) 手洗い等の節水の徹底
- C) 漏水チェック

##### 4) グリーン購入の取り組み

- A) 事務用品のグリーン購入の推進
- B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用
- C) 地元の業者の利用

##### 5) 環境配慮品・サービスの取り組み

- A) 溶剤を使用しないラミネートの推進
- B) 包装資材の古紙利用の促進

##### 6) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

- A) 環境負荷の少ない化学物質への切り替え
- B) 有害化学物質の管理の推進
- C) インクの使用量の削減
- D) 5S活動によるインクの整理
- E) インク使用量の管理
- F) 空調機の使用管理
- G) 残インクの再利用量の増加

5. 今年度の環境目標およびにそれに対する取り組み結果

		基準年度実績値 (2016/4~2017/3)	今年度目標値 (基準年-2%)	今年度実績値 (2018/4~2019/3)	対目標 達成度	評価
二酸化炭素排出量 (売上1億円あたり) (kg-CO2換算)		54,250	53,165	48,259	-9.2%	○
内   訳	電気使用量 (売上1億円あたり)(kWh) (kg-CO2換算)(※1)	24,958	24,459	22,644	-7.4%	○
	LPG使用量 (売上1億円あたり)(kg) (kg-CO2換算)	22,790	22,334	19,177	-14.1%	○
	ガソリン・軽油使用量 (L) (kg-CO2換算)	77,050	75,509	82,360	+9.1%	×
	廃棄物等総排出量(kg)(※2) (売上1億円あたり)	(2015/4~2016/3)(※3) 13,331	(基準年-3%)(※3) 12,931	14,480	+12.0%	×
水使用量(m <sup>3</sup> )		1,444	1,415	1,614	+14.1%	×
環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み		環境負荷の少ないノンソルベントラミネート工法の推進 結果:フル稼働を維持できている。受注量が多いため、外注に 依頼する際にもノンソルベントラミネートを使用している。				○
有害化学物質使用量 削減の取り組み		インキ使用量の削減・環境負荷の低い化学物質への切替 結果:生産高比の印刷インキ使用量は昨年並み。同じく生産高比 の接着剤の使用量は5%減少させることができた。 溶剤再生機によるリサイクル溶剤の作成実績が昨年比80%増				○

※1 電気使用量から二酸化炭素排出量を算出する際に、エナリスの2015年の値 0.331を使用します。なお、東京営業所は東京電力より電力を購入していますが、全体に占める割合が低く、計算の簡略化のためすべてエナリスの値を用いて計算を行います。

※2 廃棄物総排出量＝一般廃棄物および産業廃棄物(廃プラ・ウエス・廃インキ・鉄くず)

※3 廃棄物の基準年度には(2015/4~2016/3)を使用。(2016/4~2017/3)の数値が例年に比べ突出して高かったため。それに伴い目標値の設定も基準年より-2%ではなく-3%としました。

上記の表の数値には、それぞれ以下の対象サイトの数字が合算されています

- 電気使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所
- LPG使用量 本社のみ(他のサイトではLPGは不使用)
- ガソリン・軽油使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所・大阪営業所  
(ただし、全社一体での購入のためサイトごとの数字は把握不可能)
- 水使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所
- 廃棄物等総排出量 本社・愛西配送センター・東京営業所

大阪営業所については、対象サイトが住居と兼用した建物内にあり、電気・LPG・水・廃棄物の事業活動による負荷だけを取り出して計測することが困難であるため、数字による管理は行っていませんが、これらの使用量・排出量の削減活動に取り組んでおります。

## 6 取り組み結果に対する評価

### 1) 二酸化炭素排出量(売上1億円あたり)

結果： 二酸化炭素の排出量は、総エネルギー使用量のCO2換算値で、前年で-11%となり、目標についても-9.2%となり達成しました。

評価： 内訳として電力とLPG使用量については、大幅に減少させることができましたが、ガソリン・軽油の使用量が増加しました。

#### LPG(売上1億円あたり)

前年比 -18%で目標に対しても -14.1%と達成することができました。

前年度が厳冬であったのに対して、今年度は暖冬で平均気温が2度以上違うため、その影響があるものと考えられます。ただしその中で、気温が前年度よりも低い水準であった月においても全体的にLPG使用量が減少しており、気候的要因の他にも当社の取り組みである、機械稼働の効率化の成果が出ているものと考えられます。

#### 電気(売上1億円あたり)

前年比 -8.3%で目標に対しても -7.4%と達成することができました。

8月以外の月については、全体的に10%程度減少することができました。

ただし、一番使用量の高い8月の電力使用量は前年比でわずかに減少こそしたものの、生産高も減少したことを考えると、実質はほとんど減少していません。最大デマンドの抑制という観点からすると、効果を上げることができませんでした。

#### ガソリン・軽油

ガソリン・軽油については、目標に対して +9.1%となり、達成できませんでした。ガソリンと軽油を分けたところ、ガソリンが前年比で +6.5%、軽油が前年比で +1.9%となりました。

ガソリンについては、今年度の初めに営業車が1台増強されたため、その台数の変化割合がそのまま数字として表れました。つまり台数変化の影響を除くとほぼ横ばいであり、取り組みの成果が見られませんでした。

軽油については、当社ではすべて配送系のトラックの数字となりますが、昨年とほとんど同じ客先構成であるため、配送ルートがまた悪化して来ているものと考えられ、取り組みの再徹底が必要です。

## 2) 廃棄物等総排出量

結果： 廃棄物排出量については、前年比で +2.0%となり、目標に対しても +12.0%と達成することができませんでした。

評価： 月別に見たところ、前年度に製品の不良在庫を一斉処分した月以外は軒並み増加しており、歩留まりや製造ロス削減の取り組みが後退していると考えられます。その中でも、試刷り用フィルムの使用量は削減で来ており、製造事故率も減少していることから、事故として取り上げられていない正常に加工されているはずの製品の歩留まりが特に悪化していると考えられます。

廃棄物の種別ごとにみると、再生品以外の廃プラスチックが前年比で +20%にもなりました。それに対して再生品の廃プラスチックが前年比で -30%と大幅に減少しています。前年と比べて、当社の扱っている製品の材質構成が大幅に変更したとは考えづらく、この結果は再生できるプラスチックとそうでないプラスチックの分別がおろそかになって、再生しないプラスチックのほうに紛れ込んでしまっていると考えられます。

ウエスについては前年比で -30%と大幅に減少しました。前年度が作業環境の問題で大幅増であった反動もありますが、直近10年間でもっともよい水準であるためウエス使用量節約の取り組みの効果が出ているものと考えられます。

木くず・紙くずは昨年比で +12%となりました。この増加傾向が3年続いており、早急な対策が必要です。

## 3) 水使用量

結果： 水の使用量については、前年比で +17%、目標値に対して +14.1%となり目標を達成することができませんでした。

評価： 7・8月期に空調機の補助のために水量が増えていた問題は前年度中に解決し、結果に表れましたが、そのほかの月が年間通じて増えてしまっており、別の問題が発生していることを示しており、さらなる管理が必要だと考えられます。

## 4) グリーン購入の取り組み

### 事務用品のグリーン購入の推進

プリンターの購入時に、エコタンクタイプのものを前年に加えてさらに1台購入し、カートリッジごみの少ないタイプに順次切り替えております。

### 購入資材にリサイクル品を積極的に使用

ウエス・段ボール・紙管は、もとよりリサイクル率の高い商品を使用しており、今年度も引き続きそれらの商品を使用しています。

### 地元の業者の利用

特に備品のメーカーの変更などがなかったため、昨年と同水準の活動になります。



## 5) 環境配慮型商品、サービスの推進の取り組み

### 溶剤を使用しないラミネートの推進

ノンソルラミネートの生産高は前年比で +3%となり、目標の水準を維持できています。ここ4年間、機械がフル稼働しており、頭打ちの状態となっていますが、その中でも段取りを向上させて可動率を上げることで、生産量を上積みできています。

### 包装資材の古紙利用の取り組み

今年度は、使用する材質の変更はありませんでしたが、製品の規格の変更によりつかわれなくなった段ボールの型番が発生したため、それを備品用の箱に転用することで、有効活用しています。

## 6) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

### 環境負荷の少ない化学物質への切り替え

### 有害化学物質の管理の推進

### インキ使用量の削減および管理

今年度のインキ使用量は、印刷機の生産工賃高との比率でいうとほぼ前年並みの数字となりました。

溶剤回収機による溶剤の再利用の取り組みについて、前年度の後半にしっかりとした体制を整えて、毎日定められた回数稼働させるようにしました。

その結果、前年比で +80%の実績となり、約3000kgの溶剤の購入量を減らすとともに廃油の排出量の削減にもつながりました。

### 空調機の使用管理

昨年度より、空調装置を毎月1回点検し、故障によるフロンの外部流出がないか確認しております。

## 7. 本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価

### ・愛西配送センター(常駐 0名)

電力使用量について、前年比で +20%となり大幅に増加しました。

荷物をできるだけエレベーターで動かさないですむ配置は続けていますが、今年度から本社内のスペースを確保するために、倉庫を積極的に活用する体制となり、人員配置も変更されて、1日のうち半分以上はメンバーが常駐している形となり、空調・照明の使用時間が増えたものと考えられます。

### ・東京営業所(所属 1名)

電力使用量が前年度比で +8%となり増加しました。営業活動の規模の変化により、事務所にいる時間が毎年大幅に変化しているため単純には評価できませんが、いま一度取り組みを見直す必要があります。

### ・大阪営業所(所属 1名)

ガソリン・軽油使用量、および環境にやさしい製品の推進の2つの項目のみの参加となっています。この2つとも全社あわせての評価となるため、大阪営業所の活動については、本社の活動とまとめて評価します。

## 8. 教育訓練体制についての評価

新人が対象の勉強会については、今年度は対象となる新入社員がおらず、実施されませんでした。

派遣社員については入れ替わりが激しく、勉強会という特別な機会を作った教育が難しいため、環境活動以外の面についても勉強会という形よりも、簡易的なマニュアルをリーフレットの形にして、短期間で最低限のものを効率よく伝えるという形に切り替えつつあります。

環境活動についても同じ方向で教育をするように体制を整備しています。

## 9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の環境管理に対する近隣住民からの苦情・指摘は直近3年間ありません。

「消防法」について、印刷用インキの保管設備の形態について、津島市の消防本部より指摘がありました。この点について、現在工事業者を選定し、業者と消防本部との間で方法について打ち合わせを行っており、了承が得られ次第着工する予定です。

この後も関係機関の指導を受けながら保管設備の修繕計画について進めていきます。

その他の環境関連の法規につきましては、『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』・『PRTR法』・『騒音規制法』・『振動規制法』・『フロン排出抑制法』などが適用対象に該当いたします。これらの法規に対し、当社で順守状況を確認致しました結果、違反はありませんでした。また、外部からの違反の指摘もありませんでした。

## 10. 代表者による全体評価と見直し

前年度の課題となっていた空調機の更新については、具体的な計画が立ち、2019年5月までに工事が完了いたしました。それに伴い、電気およびLPGガスの使用量が大幅に変化することが予想されるため、次年度は増減について情報の収集と分析に努め、結果をもとに新しい計画を立てることとします。

働き方改革の流れで、残業時間や有給休暇の取得率により積極的な管理が必要になります。

人材の確保も難しい中、機械の稼働率を無理やり上げることが困難な環境となっています。

前年度、当社ではこれを機会として、段取りの改善や人員配置の効率化に積極的に取り組んで来ました。その結果、生産高を維持しつつ、工場稼働時間の短縮につなげることができたため、電気やLPGガスといった環境負荷についても削減することができました。

その一方で、歩留まりが低下しており、廃棄物の排出量増加につながっています。

生産の効率化・高速化を追い求めるあまり、製造ロスが増えていると懸念されます。これは環境不可だけではなく、会社の利益にとっても問題です。次年度は、この「歩留まり向上・ロス削減」に重点を置いて取り組んでいきます。

## 11. 次年度の活動管理について

次年度の活動レポートについては 2020年6月30日までに作成するものとします。

## 12. 中期計画(2017年度～2021年度まで5ヶ年)

2019年5月に、空調設備が一部更新され、エネルギー源がLPGガスから電力に切り替わります。その影響が、2019年の夏季から出るものと考えられます。そのため2019年度はこのままの目標で進めざるを得ませんが、2020年度から実情に即した目標を設定する必要があります。

まず、空調機の更新により、電力・LPGガスが増減した結果、現時点の二酸化炭素総排出量の目標値に対してよい結果が出ているかどうかを評価します。その後、2019年度末に実績をもとに2020年度以降の電力およびLPGガスの目標値を再設定することとします。

	二酸化炭素 総排出量 (kg-CO2)	電力使用量 (※1) (kg-CO2換算)	LPG使用量 (kg-CO2換算)	ガソリン軽油 使用量 (kg-CO2換算)	水使用量 (t)	廃棄物等 総排出量 (kg)
2016年度実績値 売上:11.85億円 (売上1億円あたり)	642,865 (54,250)	295,752 (24,958)	270,063 (22,790)	77,050	1,444	(※2) 151,180 (13,331)
2017年度目標値 売上1億円あたり	53,708	24,708	22,562	76,280	1,430	13,064
2018年度目標値 売上1億円あたり	53,165	24,459	22,334	75,509	1,415	12,931
2019年度目標値 売上1億円あたり	52,623	24,209	22,106	74,739	1,401	12,798
2020年度目標値 売上1億円あたり	52,080	23,960	21,878	73,968	1,386	12,664
2021年度目標値 売上1億円あたり	51,538	23,710	21,651	73,198	1,372	12,531

環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み	2016年度のノンソルラミネート機の製造工賃高を維持
有害化学物質使用量 削減の取り組み	2021年度までに印刷生産高に対するインキ購入額の比率を29%に抑える 2020年度までに溶剤再生機の稼働実績を、営業日×3回の水準を達成

※1 電気使用量(kWh)から二酸化炭素排出量を計算するための係数は 0.331(エナリス:2015年)を使用

※2 2016年の廃棄物排出量の数値が平年に対し突出したものであったため、2015年の数値を使用

2019年度は、代表者の見直しで言及されている通り、「歩留まり向上・製造ロス削減」に重点を置いて産業廃棄物の排出量を減らせるような活動します。また「ガソリン・軽油」「水」の使用量を削減できるように、この負荷に対しての新しい取り組みを始めます。

13. 次年度の主要な環境活動計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取り組み

購買電力量

- A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付
- B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26°C・暖房時22°C
- C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し
- D) 機械のメンテナンス体制の充実
- E) 生産設備可働率の向上

ガソリン・軽油の使用量

- A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)
- B) 低速走行の励行、急発進の禁止
- C) 車のエアコン設定温度の見直し
- D) 点検・整備の励行
- E) 納品および営業活動のルートの見直しによる、走行距離の削減
- F) 配送トラックの走行距離・燃費データの把握と分析

LPGの使用量

- A) 機械のメンテナンス体制の充実
- B) 生産設備可働率の向上
- C) 段取り向上による、工場稼働時間の短縮

2) 廃棄物排出量の削減取り組み

一般廃棄物・事業系廃棄物

- A) コピー紙の再利用の促進
- B) 紙管の回収及び再利用の促進
- C) 再生紙利用の促進

産業廃棄物

- A) 良品の不良化の防止
- B) 試刷りの適正利用
- C) ロス・製造不良の削減
- D) オペレーターの技術向上

3) 水使用量の削減取り組み

- A) 節水ステッカの貼付
- B) 手洗い等の節水の徹底
- C) 漏水チェック

※新規 D) 工場内の循環水の水量・水質の管理

4) グリーン購入の取り組み

- A) 事務用品のグリーン購入の推進
- B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用
- C) 地元の業者の利用

5) 環境配慮品・サービスの取り組み

- A) 溶剤を使用しないラミネートの推進
- B) 包装資材の古紙利用の促進

6) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

- A) 環境負荷の少ない化学物質への切り替え
- B) 有害化学物質の管理の推進
- C) インクの使用量の削減
- D) 5S活動によるインクの整理
- E) インク使用量の管理
- F) 空調機の使用管理
- G) 残インクの再利用量の増加